

東大阪市教育委員会令和5年8月定例会

1 日時 令和5年8月21日(月)

開会 午後2時00分

閉会 午後5時00分

2 場所 市庁舎18階 会議室1及び会議室2

3 出席者 (委員)

教育長	古川聖登
教育長職務代理者	山中雅仁
委員	堤晶子
委員	秦卓宏
委員	田中宏一

(出席説明員)

教育次長	北林康男
教育次長	森田好一
学校教育部長	永吉勝則
教育政策室長	西田幸史
学校教育推進室長	中渕一博
学校教育推進室次長	吉本博明
学校教育推進室主幹	山口敬之

4 議事

【古川教育長】

ただ今から、東大阪市教育委員会令和5年8月定例会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は田中委員にお願いいたします。

8月定例会開催にあたり、まず、私から一言御挨拶をさせていただきます。

改めまして、教育長の古川と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。本日は、たくさんの方々の市民の方々に来ていただいております。日頃から何かとご協力を賜り、誠にありがとうございます。また本日は、次の時代を担う子どもたちの教育に高い関心を持ち、ご来場いただきましたこと、誠にありがたく存じます。本日の私の挨拶は、最近の東大阪をめぐる状況も踏まえてお話させていただきます。

台風が過ぎ、まもなく2学期が始まります。この実りの秋に、子どもたちはますます成長していくことと思います。一方、夏休みの間にも、教職員の自主的な各種研修会が行われています。このことを、私は当たり前と思ってはならないと自戒しています。この国は、教職員の不断の努力に支えられていると言っても過言ではありません。心から感謝いたします。子どもたちの豊かな学びのため、教職員が健康でますます力を発揮いただけるようにするため、様々な方々からご要望などをいただいております。東大阪市教育委員会では、それらが一つでも実現し、よりよい教育となるよう力を入れております。

私は、その教育委員会の代表として、大阪府の教育長の集まりや、全国の中核市の教育長の会合などに出席し、代表として、文部科学省の幹部にも、学校現場の大変さや、今後力を入れて欲しいことなどを直接訴えております。先日も文部科学省の幹部に会い、小学校教科担任制、不登校への対策、給食費無償化、教員確保などの重点項目を中心に訴えてまいりました。国においても、骨太の方針に教育の事項が多数盛り込まれるなど、例年以上の前向きな姿勢で臨んでおられます。子どもをめぐる課題の克服に、借金をしてでも力を入れなければならないと努力されております。

東大阪市、また本市教育委員会におきましても、市長の「こどもファースト」、つまり

子どもの諸政策の最優先の方針のもとに、例年以上の力を注ぎ込んでいます。例えば小中学校、高等学校などの全ての体育館に空調設備を整備しています。今年度は中学校と高校など、来年度と再来年度は、小学校の整備を行います。また中学校の電子黒板は、最新のものに更新し、さらに、他市に先駆けてAIドリルをiPadに導入し、子ども一人ひとりに応じた教育を推進しています。楽しい学校づくりのために、学校図書館にソファーやマットなどの備品を整備しました。不登校の児童生徒へは、オンラインで指導できるルームを開設し、STEAM教育という世界最先端の学びに関する教育の研究も始めました。教職員のためには、今年度中に最新型の校務支援システムを導入したり、高性能複合機を2学期から全学校園に導入したりするなど、ICT化を一層進めております。また、明日は近畿大学のご協力で、理工学部の研究室を見せていただき、中学生が研究者の皆様と、体験をしたり、お話をしたりする機会もございます。

なお本日は、全国学力調査の調査結果に関する報告を予定しておりますが、本市の子どもたちは大変頑張っており勉強しています。他市の子どもたちも頑張っていますから、全国の順位がトップというわけにはいきませんが、全国平均を上回る子どもたちもたくさんいます。また、先日市長とともに小学生のミニバスケットボールの大会に行きました。最後の1秒まで諦めず、全力を尽くす姿に私は心から感動いたしました。東大阪市の子どもたちはなんて純粋で根性があるのでしょうか。この子どもたちの勉強やスポーツなどの頑張りをいかにして応援できるか、これが大人の問題です。教育の問題を自分ごとと捉え、そのために何ができるか、これは昨年の私の就任以来からの市民への問いかけです。

最近、市民や企業などから、寄付の申し込みが多くなった気がいたします。本、バスケットボール、楽器、新聞等々です。また、職員を支援者として、学校で研修される社会福祉法人もございました。先日は市内に住む2人の作家からも、それぞれ自著の寄付をいただきましたが、そのうちの1人は驚くことに、本市の小学校4年生でした。東大阪は、全国に名立たる中核市として、教育を根幹として、まだまだ舞いあがることができると私は信じております。東大阪市教育委員会は、これからも、本市の教育の充実に責任を持って取り組んでまいります。私からは以上でございます。

それでは、これより議事を進めさせていただきます。

本日の会議でございますが、日程第1「議案第40号 令和6年度使用東大阪市立小学校（義務教育学校の前期課程を含む。）教科用図書採択の件」を議題といたします。

それでは、議案の説明をお願いいたします。

【北林教育次長】

それでは、議案の説明をさせていただきます。

日程第1「議案第40号 令和6年度使用東大阪市立小学校（義務教育学校の前期課程を含む。）教科用図書採択の件」につきましては、4月の定例教育委員会にて、「令和6年度使用小学校（義務教育学校の前期課程を含む。）教科用図書については、東大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会より答申を受け採択する。」との採択方針及び選定委員会への諮問とその内容についてのご決定を賜りました。これに基づきまして、添付のとおり、選定委員会より8月16日付で答申がございましたので、本日、令和6年度使用小学校（義務教育学校の前期課程を含む。）教科用図書につきまして、採択をいただくものでございます。

なお、視覚的な支援の必要な児童に対する令和6年度使用の教科用図書につきましては、本件で採択された教科用図書に準ずる拡大教科用図書を、速やかに大阪府教育庁へ報告する必要があることから、中学校使用も含めて、臨時代理させていただき、次月の定例教育委員会で報告させていただく予定としております。

以上でございます。何とぞよろしく御審議のうえ、御決定を賜りますようお願いいたします。

【古川教育長】

次に、教科用図書選定委員会の諮問から答申に至るまでの経過等について、委員長である森田教育次長から説明をお願いいたします。

【森田教育次長】

それでは、経過などについて簡単に説明させていただきます。

まず、令和5年5月12日に、全選定委員12名による第1回の選定委員会を開催いたしました。その中で、本市立小学校において令和6年度から4年間使用する教科用図書及び当選定委員会が諮問を受けた内容を確認するとともに、選定委員会内に各種目13部会を設け、そこに学校現場の3名の教職員からなる調査員を置き、専門的な調査研究を行い、報告書を作成するように指示いたしました。これを受け、各部会において、教育専門職としての経験を十分に活かした調査研究が進められ、令和5年5月18日の第1回調査員連絡会及び同年6月21日の第2回調査員連絡会を経て、調査員報告書が作成され、当選定委員会へと提出されました。そして、当選定委員会は、その提出された調査員報告書を基に他の資料も参考にして、令和5年7月18日の第2回選定委員会及び同年7月25日の第3回選定委員会を経て、教育委員会への答申を作成いたしました。教育委員会への答申及びその内容は議案書に添付している資料のとおりでございます。以上でございます。

【古川教育長】

選定委員会の経過などについて御質問はございますか。

【各委員】

(質問なし)

【古川教育長】

選定委員会の委員及び調査委員の皆様、調査研究及び答申誠にありがとうございました。

それではこれより各教科の採択を行ってまいります。各委員から東大阪市で使用する教科書として相応しい教科書についてご意見をいただき、そのうえで議論を行い、採択する教科書を順次決定してまいります。まず、選定委員長の森田教育次長に、選定委員会全体を通して、議論の中心になったことを述べていただきます。

【森田教育次長】

まず選定委員会より答申するにあたり、子どもたちが生きていく今後の時代を踏まえ、どういった観点が大事かということで、全体として話題にあがりましたのは、『探究する学び』と『学び続けるための学び方を学ぶ』の2点です。

1つ目の『探究する学び』につきましては、子どもたちが主体的に学び、知的好奇心やワクワク感を持ち続けるために、どのような工夫がなされているのかという点です。具体的には、「教科横断」・「学んだ内容と日常生活とのつながり」・「これからの社会がめざすべきもの」などに着目して議論が行われました。

2つ目の『学び続けるための学び方を学ぶ』につきましては、子どもたちが生涯にわたって、学ぶ姿勢を身につけられるように、どのような工夫がなされているのかという点です。具体的には、「今までの学習とのつながり」・「学習全体の見通し」・「学ぶための工夫やアイデア」・「より発展的な内容」などに着目して議論が行われました。

【古川教育長】

ありがとうございました。私も全教科の教科書を拝見いたしました。どの本もこれまでの教科書以上に質が高く、QRコードなどの新しい技術も取り入れて工夫されていると感じました。教科書会社の方々には、この場をお借りして、心から感謝を申し上げます。

それでは、国語の教科書の採択から始めてまいります。

国語の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を簡潔に報告してください。

【森田教育次長】

国語については、子どもが学習の見通しを持つために、1年間に学習する内容などがロードマップとして示されている点、自分の意見や考えを整理するために、図や表を使ってまとめられるような工夫などについて論議が及びました。

【古川教育長】

次に各委員から、東大阪市の採択教科書として相応しいと考えられるものを述べていただき、その上で議論を進めていきたいと思います。

まず、山中教育長職務代理者から順にお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

東京書籍を候補として挙げました。年間の学習内容に対する見通しが示されていることと、私は企業に所属しておりますが、デジタルノートの使い方が示されているのが非常に良いと思っています。また「言葉の力」というフレーズが、私は良いと思っており、他社は説得力などという言葉で、少し言い方を変えているかもしれませんが、力という言葉が非常に良いと私は思いました。また図書館の記載など、本市が力を入れていることも述べられていますので、本市にマッチしているのではないかと思います。

【堤教育委員】

光村図書出版が良いと考えました。QR コードはもちろんのこと、リンク素材も良質です。また答申や調査員の報告書などの中で、光村は比較的レベルの高い指導がしやすい、教材や題材の選び方が良いという意見がありました。また、教材や題材が良いことは、現在の子どもたちに適していることという記載もありました。これまでの国語の教育で大切にされてきたことを踏襲し、子どもたちが多様化する社会を生きていく中で、その教材として選ばれていると良いのではないかと思います、光村図書出版を選びました。

【田中委員】

どの教科書も素晴らしくて、甲乙もつけがたく、1つずつ意見を申し上げると時間がかかってしまいますが、物理的な点で、全学年において上下の分冊になっている教育出版が、使いやすく便利で、最も良いと思いました。また情報量については、東京書籍が多く、見やすいと思いました。

【秦委員】

東京書籍を選びました。スマホをよく使っていると、だんだん文字を忘れていきがちになる世の中ですが、そういう中で、1年生の本には、文字を書く・覚える・認識することが丁寧に取り上げられています。また、現在の大きな課題の一つである、環境や現代社会の問題について取り上げている点に注目しました。光村図書出版も非常に良いとは思いましたが、言葉の意味等で考えると、東京書籍の方が分かりやすいという意図で選ばせていただきました。

【古川教育長】

ありがとうございます。委員のお話をお聞きしますと、東京書籍の声が多いようですが、私自身も、東京書籍が良いと思いました。これは、先ほど山中教育長職務代理者がおっしゃられましたが、図書館に関する記載がある中、博物館についても記されており、これは、現代の日本の教育全体で目指しております探求活動にあたりまして、この教科書に書いてあることからの広がりという意味で申し上げますと、この探究活動に誘っていくという点が大変重要であると感じました。またデジタルコンテンツも非常に充実していることから、東京書籍が良いと思いました。

それでは、国語については、東京書籍が多いように思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。それでは国語については東京書籍に決定いたします。

続きまして、書写の教科書の採択に入ります。書写の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

書写については、子どもたちが対話的な学びへと導くしかけや、書写で学んだことを、他の学習や生活の中で生かすための工夫などについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、山中教育長職務代理者からお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

3社どれも良いですが、1年生にとってキャラクターが非常に親しみやすいことから、学習に入りやすいかと思い、光村図書出版を候補として挙げたいと思います。

【堤教育委員】

光村図書出版が良いと思います。書写の指導は難しいとっていて、その理由の1つに、目当てを明確にすることが難しいとっています。光村図書出版では、その目当てが明確になっていますので、今回選ばせていただきました。

【田中委員】

東京書籍の右手と左手の両手で持ち方を学べるという多様性に配慮されている点がすごく良いと思いましたが、教育出版の試し書きやまとめ書きといった自分の成長を感じられるような工夫をされている点や、動画を授業中において効果的に活用しやすい点があるため、教育出版が最も良いと思っています。

【秦委員】

東京書籍と光村図書出版で非常に悩み、若干ですが、東京書籍の「コンピューターのつかいかた」で、先生や保護者含め、インターネットを使う時の決まりごとや約束を学べるという点から、本当に少しの差ですが、東京書籍を選んでおります。

【古川教育長】

光村図書出版が良いと思っています。デジタル端末を使って勉強する流れがある中、習字の筆を持つ機会が、これまで以上に減るのではないかと思っています。筆のとめやはらいを、視覚的に非常に分かりやすく工夫されていて、各社も工夫されていますが、光村図書出版は、視覚的に上手に表現されていると思いました。最近の東京書籍の鉛筆の持ち方に関する記述が、私はあまり感心しないなと思っていましたが、今回は右手と左手で持ち方を丁寧に書いているという、先ほどの田中委員と同じ意見を持ちましたが、国語にも同じような記述がございましたので、そういう意味では、光村図書出版が良いと思いました。

5人の意見を合わせますと、光村図書出版が若干多いようですが、東京書籍を推す声もございます。秦委員は、どちらかというとな東京書籍ですか。

【秦教育委員】

そうですね。本当に僅差ですけれども。

【古川教育長】

田中委員はいかがでしょうか。

【田中教育委員】

教育出版が一番なのは変わりませんが、光村図書出版も素晴らしい教科書だという認識はあります。

【古川教育長】

それでは、全体として光村図書出版で御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。書写については、光村図書出版に決定いたします。

続きまして、社会の教科書の採択に入ります。社会の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

社会については、様々な資料が豊富に掲載されており、読み取る力を育む工夫や、学習課題に対する具体的な学習方法が示されていることなどについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、山中教育長職務代理者からお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

3社どれも甲乙つけがたい感じがします。その中で、日本文教出版を推薦したいと思います。先ほど森田教育次長からお話がありましたように、それぞれ非常に資料が豊富なのですが、日本文教出版では資料が厳選されているということで、本市の先生方や子どもたちにとっても良いのではないかと思います。また、これは中身の話と少し違うかもしれませんが、中小企業の親父である私としては、日本文教出版の教科書の中に、中小企業の職場環境が掲載されていて、最近の中小企業でも職場環境が変わってきているという記述や写真があり、それはそれとしてですけれども、日本文教出版を候補として挙げます。

【堤教育委員】

日本文教出版が良いと思います。森田教育次長のお話の中にもありました学び方を学ぶということにおいて、社会科は学び方がすごく難しく、日本文教出版は、様々な資料から読み解く手法や、「学び方・調べ方コーナー」などをはじめとした、指導者や児童にとって学び方が分かりやすい工夫がありましたので、日本文教出版を選びました。

【田中委員】

日本文教出版が良いと思いました。理由としては、学習問題からさらに考えたい、さらに勉強していききたいという観点は、東大阪市の探求心の強い子どもたちを考えると、もっと考えていこうという掲載内容は、東大阪市の子どもたちにすごく合うのではないかと思います。

【秦委員】

日本文教出版を選びました。その理由としては、社会を学ぶ上で、古い内容ももちろん大事なのですが、今回は緊急事態宣言のことや、障害者差別解消法の改正法案といった最新の事柄が取り上げられている点に注目しました。また、先ほど山中委員がおっしゃられたように、東大阪市のことについても取り上げられている点は、子どもたちにとって誇りになるのではないかと考えましたので、日本文教出版を選んでいきます。

【古川教育長】

3社の教科書は、どれも素晴らしいものですが、その中で日本文教出版が良いと思いました。東大阪市のついて5ページも取り上げていただいている点は、東大阪市の取り上げている教科書は他にもありますが、子どもたちが郷土への誇りを持つことができ、特に社会の教科書で取り上げられているという意味は、他教科に比べて非常に重いものがあると思います。また自分の市を客観視するということを含めまして、選ぶポイントになりました。

以上のように、皆さんの意見をまとめますと、全員が日本文教出版に選んでいますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。社会については、日本文教出版に決定いたします。

続きまして、地図の教科書の採択に入ります。地図の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

地図については、豊富なデジタルコンテンツを活用し、歴史や防災、各統計、世界遺産などの学習と関係付ける工夫や、多角的な学びへの意識などについて、論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、山中教育長職務代理者よりお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

帝国書院を候補として挙げました。非常に見やすいです。子どもにも理解しやすく、興味が湧いて、さらに様々なことを調べられることもできるのではないかと思います。

【堤教育委員】

東京書籍ももちろんオールラウンダーで素晴らしい教科書を作っておられますが、帝国書院には、司馬遼太郎記念館、花園ラグビー場や枚岡神社といった東大阪市の施設等が掲載されているので、多角的に歴史を中心に学びやすく、子どもたちが現代に残っているものや新しいものに誇りを持つことができるので帝国書院を選びました。

【田中委員】

東京書籍の産業記号が多い点がすごく良く、記号を覚えていくことで、地図や内容も覚えやすいと思います。ただ内容としては、帝国書院の地図クイズや世界の挨拶など、デジタルコンテンツがかなり豊富に作られているので、書籍としては、帝国書院を選びました。

【秦委員】

帝国書院を選びました。山中委員が先ほどおっしゃられたように、文字の大きさなどが、ユニバーサルデザインに配慮されていて、非常に見やすいです。もう一つは、非常に様々な場所で起きています自然災害を意識できるような防災マップ作りがあり、災害に対して身近に感じてもらえるような配慮がありますので帝国書院を選びました。

【古川教育長】

帝国書院が良いと思いました。地図クイズ、日本の自然・産業、SDGs などのデジタルコンテンツが豊富で、本以外の広がりという点でも、非常に充実していると思います。

皆様の意見を伺いましたが、帝国書院を推す声が多いようです。田中委員は、どちらかというと帝国書院でよろしいですか。

【田中委員】

はい。

【古川教育長】

そうしますと、異議がなく帝国書院を推す声が多いようですので、帝国書院に決定したいと思いますが御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。それでは地図については帝国書院に決定いたします。

続きまして、算数の教科書の採択に入ります。算数の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

算数については、プログラミングについて体験的に考える、または学んだことを他教科や日常生活と関連付けること、子どもたちが自分で学習するためのデジタルコンテンツの活用などについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、山中教育長職務代理者からお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

啓林館を候補として挙げます。どの教科書も非常に良く、特にプログラミングなどの記載が非常に充実しています。その中で、啓林館には、子どもたちの目線で楽しませてくれる点があります。例えば、実際にプログラミングを使って、機械などを動かすことができます。また、デジタルコンテンツには、よくある間違いが非常に分かりやすく表現されていて、子どもたちの目線で、なぜここでこういうふう間違いのかをうまく指摘しています。さらに、この点は少し議論から外れるかもしれませんが、5年生で学ぶ対称形について、啓林館では、どうして綺麗に見えるのかという問いかけがあります。他社の教科書は、様々な対称形を町から探そうという内容になっていますが、どうしたらきれいに見えるのかという感性的な問いかけは、子どもたちをワクワクさせてくれると思いましたので、啓林館を選びました。

【堤教育委員】

啓林館と東京書籍の2社を選びましたが、両社ともに幼児教育との接続が意識されている中、プログラミング教育の考え方としては、啓林館の方が一歩前に出ていると考えています。

【田中委員】

いくつかの出版社において、幼児教育との接続を意識した1年生用の別冊がある教科書はすごく良いと思います。他に、教育出版の4コマ漫画で単元を振り返る工夫は、私も勉強している時に、漫画を見てクスッと笑ったりした記憶が残っているので、そういう取組は面白いと思います。内容としては、大日本図書を推します。様々な仕事に携わる方々から、仕事において、算数はどのように役立っているのかという「算数お仕事インタビュー」が非常に良く、先生方も、なぜ算数を学ぶ必要があるのかと子どもたちから聞かれた時に、こういった仕事で役立つよという説明ができるかなと想像し、そういうことも配慮されて教科書を作られているのかなと思ったので、大日本図書が1番良いと考えました。

【秦教育委員】

堤教育委員と田中教育委員がおっしゃられたように、幼児教育との連携が、どの出版社も非常によく意識されていると思います。その中で、啓林館を1番に選びましたが、東京書籍には、中学校の学習内容を意識した「中学校体験入学コース」があり、幼児教育との連携といった入口だけでなく、出口にも重きを置いている点が非常に良いと思いました。しかし、これから大学の入試科目に情報という教科が加わる中で、どうしてもプログラミング的な発想が大事になっていくことが考えられますので、啓林館のプログラミング的な思考を育むことができる点に注目して、今回は、啓林館を1番に選んでおります。

【古川教育長】

啓林館が良いと思いました。デジタルコンテンツが最も充実している中、実際に機械を動かすことができ、プログラミング思考等を育めるのが良いと思います。この学習が何に役立つのかが分からないという声を子どもからよく聞きますが、算数がプログラミング的思考につながることを理解しやすいのではないかと思います、啓林館を1番に選びました。

5人の主張をまとめますと、啓林館を推す声が多く、他にも東京書籍などの声もありますが、堤委員は啓林館ですか。

【堤教育委員】

はい。

【古川教育長】

秦教育委員も啓林館ですか。

【秦教育委員】

はい。

【古川教育長】

田中委員はいかがですか。

【田中教育委員】

啓林館の教科書につきましても、東大阪市において去年から取組まれています多文化共生プログラムに関連しているキャラクターが使用されていますので、東大阪市の子どもたちが来年度から使用していく教科書という点では、非常に相応しいものであるかと思えます。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは算数につきまして、啓林館に決定したいと思いますが御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。それでは算数については啓林館に決定いたします。

続きまして、理科の教科書の採択に入ります。理科の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

理科については、理科を身近に感じる話題に触れ、学んだことを深めたり、キャリア教育の観点から将来の仕事に興味を広げたりする工夫や、STEAM 教育のように他教科と関連させて学ぶ工夫などについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは山中教育長職務代理者からお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

東京書籍と学校図書を選びました。東京書籍には、「レッツトライ」という学習の見通しが立てやすい工夫や、東大阪市も取組んでいる STEAM 教育といった理科が非常に身近に感じられるような話題にも触れている点が非常に良いと思っています。学校図書は、写真などにおいて、非常に全体的なバランスのとれた教科書だと思います。その中で、写真の解像度が高く、非常にきれいで、子どもにとって非常に興味を持てる内容だと思います。

【堤教育委員】

啓林館と学校図書を考えました。いずれの教科書も様々な工夫を凝らしているのですが、学校図書には、子どもの発想が引き出しやすい、また学習の見通しを持ちやすくするという工夫が多く見られるという点を尊重したいと思っています。啓林館は、山中教育長職務代理者がおっしゃられた STEAM 教育に関連付けて学べる点があり、学習の広がりという観点を考えると啓林館が良いかと思っています。

【田中教育委員】

東京書籍の身近に感じる話題を使いながら学んだことを深める工夫や、キャリア教育の観点から、将来の仕事に興味を持たせる工夫がすごく良いと思いました。やはり勉強していく上で、未来はこんな感じでこうなっていくよという将来に繋がる教材というものは素晴らしいと思います。ただ内容としては、啓林館が1番良いと思っています。先ほど山中教育長職務代理者がおっしゃったように、2025年の大阪万博で、展示物を作られる中島さち子さんという方がいらっしゃって、その方の会社と東大阪市が現在提携しており、STEAM教育を推進しています。その中で、啓林館は、そのSTEAM教育に関する内容がすごく充実していたのと、その他関連させる工夫があったので、現在STEAM教育を推進している東大阪市にとっては、先生が子どもたちに教えやすいと思いましたので、啓林館を1番に、東京書籍を2番に選びました。

【秦教育委員】

まず教育出版と啓林館を考えました。理科は意外に暗記するところが多くある中、重要な箇所にマーカーが引かれていて分かりやすいという点から、教育出版と啓林館を選びました。その中で、私は啓林館を1番に選んでいます。ICTを使った学習が多く取り上げられており、これからどうしてもICTの活用が一番大事になってくるという理由から啓林館を1番に選んでいます。

【古川教育長】

啓林館を選びました。先ほど田中委員がおっしゃられたように、本市として、STEAM教育を推進している観点からすると、啓林館が1番ふさわしいと思います。他の出版社でも取り上げていますが、総合的に啓林館が一番良いと感じました。

5人の選択を合わせると、啓林館を1番に推す方が4名です。山中教育長職務代理者は、啓林館はいかがでしょうか。

【山中教育長職務代理者】

私は、当初啓林館を候補として挙げませんでした。本市が STEAM 教育の推進に力を入れている点は、私も同様に認知しておりますので、啓林館を採択することに対し異論はございません。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは理科につきまして、啓林館に決定したいと思います。御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。それでは理科については啓林館に決定いたします。続きまして、生活の教科書の採択に入ります。生活の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

生活については、自分の考えを整理し、それをまとめるための工夫・子どもが学習を楽しめる工夫・生活科の見方や考え方に準じた振り返りができる工夫などについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは山中教育長職務代理者からお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

光村図書出版を推薦します。どの出版社も良く、選ぶのが難しいですが、光村図書出版には、保護者へのメッセージがあって、子どもたちが保護者と一緒に学ぶ点が非常に良いと思います。また教科書のイラストについて、著名な絵本作家の方が描いており、非常に温かみのある絵だと感じました。

【堤教育委員】

啓林館を選びました。理科・算数・生活は、幼少との連携が非常に大事だと思います。特に小学校3年生にどうつないでいくという点が大事であり、ステップブックがある点が非常に良いため、啓林館を選びました。

【田中委員】

どの教科書もすごく良いため悩んでいて、特に印象に残ったのが、大日本図書の「みらいにむかってしゅっぱつ」のコーナーです。作文の例が提示されていて、自分の成長を見つめられるような工夫や、振り返られるような工夫があるのがすごく良いと思います。また教育出版の単元の終わりにある「ぐんぐんはしご」というコーナーについても、学習の自己評価を振り返るページがあります。どの出版社も振り返る事に関する工夫はありますが、この2社が特に印象に残りました。

【秦教育委員】

啓林館を1番に挙げます。ページをめくるリードがあって次に進みやすいです。また、どのように勉強すればいいのかが分かりやすい点に最も着目しましたが、写真やイラストも多く、何を勉強しているのかが分かりやすい点も、啓林館を挙げたポイントです。

また学校図書についても、最近実際に春の草花を見る機会が少しずつ減ってきているので、草花みたいな自然のものを意識するような文化が残っていると良いなという点で、学校図書も次点で挙げました。

【古川教育長】

東京書籍が良いと思いました。多国籍の子どもが教科書に登場しており、多様性が非常に感じられます。低学年の子どもに、自然な形で、そういう情報が提供されているのは大変良いと思いました。また「かつどうべんりてちょう」が非常に分かりやすく良いと思いました。

意見が分かれています、どちらかというと啓林館を推す声が多いように思います。他にもお気づきの点があれば発言をお願いしたいのですが、山中教育長職務代理者においては、啓林館はいかがですか。

【山中教育長職務代理者】

先ほど申し上げましたが、どの出版社も良いもので、各社で様々な工夫がされていますので、啓林館も良いと思います。

【古川教育長】

田中教育委員は、啓林館いかがですか。

【田中教育委員】

自分としては、大日本図書と教育出版が良いかなとは思っています。

【古川教育長】

生活は、各社の特徴がすごく出るもので、作り方の自由度が、他の教科に比べても高いと思います。秦教育委員は、啓林館を一番に推しているということですか。

【秦教育委員】

はい。

【古川教育長】

私も、東京書籍以外であれば、光村図書出版か啓林館だと思っています。光村図書出版の保護者へのメッセージも良いですし、啓林館のスタートブックなども良いと思いました。田中委員は、啓林館に悪い感じはありますか。

【田中教育委員】

悪い感じは全くないです。私の1番と2番は、大日本図書と教育出版ということです。

【古川教育長】

ありがとうございます。なかなか多数決にはしたくありませんが、啓林館を推す声が多いようですので、今回の採択は、啓林館で御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。それでは生活については啓林館に決定いたします。続きまして、音楽の教科書の採択に入ります。音楽の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

音楽につきましては、掲載されている楽曲のバランスや数の豊富さ、演奏のしやすさ、デジタルコンテンツの充実などについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは山中教育長職務代理者からお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

どちらも甲乙つけがたいと感じており、2社ともに見通しをもって学習がしやすいという点と、振り返りもできる工夫がある点が見られる中で、私は教育出版を候補として挙げました。本市は、関西フィルハーモニー管弦楽団と提携している中で、早くからクラシック音楽を身近に触れることができる点が非常に良いと思いましたので、教育芸術社を選びました。

【堤教育委員】

随分迷いました。教育芸術社には、音楽づくりというものがあり、その内容が、子どもたちの発達段階に合わせて無理なく取り組むことができるという工夫があります。音楽は、子ども一人ひとりにおいて、どの教科でも差はありますが、小さい頃からどの音楽に、どれだけ慣れ親しんできたかというような音楽の履歴みたいなものが、かなり違ってくるものだと思いますので、それぞれの子どもの発達段階に合わせた形の教育が行いやすい教科書だと思い、教育芸術社を選びました。

【田中教育委員】

私は、本当に僅差で、教育芸術社を選びました。教育出版もすごく良かったのですが、イメージなどを見ますと、教育芸術社の方が見やすく、勉強もしやすいと思いました。

【秦教育委員】

非常に甲乙つけがたいのですが、教育芸術社を選びました。理由としては、親しみやすい曲や、よく知られている曲が多く、多様性にも配慮されていることに加えて、答申にも述べられているのですが、デジタルコンテンツで音や音楽を作る学習ができるという点です。現在スマートフォンで音楽などを作ることができますので、そういうことを身近に感じてもらえるような学習ができる点に注目して、教育芸術社を選びました。

【古川教育長】

私も大変迷っており、辻伸幸さんを私は大変素晴らしい芸術家だと評価している中、教育出版では辻さんを紹介されている点に非常に好感を受けましたが、教育芸術社は、QRコードにおいて部がある内容になっています。音楽という教科は、教科書を読んで学ぶというより、読んで字のとおり音を楽しむという面が非常に大きいと思います。そういう意味で、先ほど秦委員がおっしゃられたとおり、実際に音を聞くだけでなく、作る、楽しむところまで踏み込んで作っている点に部があると思っており、教育芸術社を推します。

5人の意見を並べてみますと、教育芸術社を推す声が多いですが、山中教育長職務代理者はいかがでしょうか。

【山中教育長職務代理者】

はい。異論はございません。

【古川教育長】

それでは、音楽につきましては、教育芸術社を採択することに御異議がないようですので、そのように決定いたします。

続きまして、図画工作の教科書の採択に入ります。図画工作の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

図画工作については、集団における協働的な学びを意識した構成、創造力を高めるためのデジタルコンテンツの活用、子どもたちにつけたい力の示し方などについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは山中教育長職務代理者からお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

開隆堂を選びました。2社ともに特徴的である中、開隆堂は、協働的な学びや、学んだことを、特に芸術家などの専門家ではなく、将来仕事に就いた時に活かせる人間の深みも含めて、将来につなげられる点が特徴かと思います。一方で、日本文教出版は、個を大切に、専門家を少し意識されたような中身であると感じました。本市においては、繋がりや、将来に学んだことを人間の深みに活かせる点が大切と思い、開隆堂を選びました。

【堤教育委員】

日本文教出版を選びました。こういう専門的な分野の評価は、なかなか指導が難しい面がある中で、学習の目当てを3つの観点で、且つ5項目に分けて、育てたい力などをわかりやすく示している点と、鑑賞分野では、開隆堂も様々な工夫をされていますが、そこに取り上げられている作品や、鑑賞の視点において卓越したものがあります。

【田中教育委員】

社会に出ると、様々な発見や学びなどといった新しいものというのは、図画工作から発展してくるというイメージがあります。開隆堂の教科書を見ていますと、「未来へつながる図画工作」というコーナーや、「アイディアシート」というデジタルコンテンツがあり、子どもたちのアイデアを出そうという工夫などが強く感じられましたので、開隆堂が良いと思いました。

【秦教育委員】

開隆堂を選んでいきます。学習の目当てがシンプルでわかりやすく、例も多いことから発想が広がる点に注目しました。また、先ほど山中教育長職務代理者がおっしゃられたように、協働的な学びを、例えばみんなで何か大きなものを作り上げていくことを、小さい頃から少しでも意識している点では、開隆堂が良いと思いました。

【古川教育長】

日本文教出版が良いと思いました。現在戦争が行われている中、原爆ドームやゲルニカを大きく取り上げており、平和教育に関して芸術ができること、人間の表現についての考え方が、この教科書に大きく表れていました。両者とも優れた教科書で、甲乙つけがたいですが、東大阪市の子どもたちに読んで欲しい方は、日本文教出版かと思いました。

皆さんの意見を聞いていますと、現在意見が分かれてしまっている状況で、開隆堂を選んだのは、山中教育長職務代理者と田中委員と秦委員で、日本文教出版を選んだのは、堤委員と私です。多数決で決めることはあまり良くはありませんが、開隆堂を推す声が若干多いようです。どちらも甲乙つけがたいところですが、特に開隆堂の協働的な学びについて、これを評価する声が複数ありました。もちろん図画工作は、どちらかという個人で作品を作るイメージが大きいですが、その点をあえて協働的な学びの表現に挑戦しているところを、私自身も評価しています。開隆堂について、堤教育委員はいかがでしょうか。

【堤教育委員】

開隆堂で良いかと思います。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは、図画工作につきましては、開隆堂を採択することに御異議がないようですので、そのように決定いたします。

続きまして、英語の教科書の採択に入ります。英語の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

英語については、子どもが個々に学習の目標を立てる、学びの見通しを持つための工夫、デジタルコンテンツを活用した興味付け、学んだことの確認などについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは山中教育長職務代理者からお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

非常に悩みました。開隆堂を候補として挙げます。小学校の英語なので、とっつきやすさはもちろん大事なのですが、例えば、英語の学習では、単語を覚えることが大事だと思いますので、そういう面から申し上げますと、開隆堂は単語帳が別冊になっています。一方で、楽しく学ぶという点も大事だと思っており、開隆堂は、子どもたち同士のアクティビティについて、深く話し合いができるような内容になっていますので、楽しく英語を学ぶことができるのではないかと考えています。したがって、学ぶ上で単語が大事である点と楽しく学べる点のバランスを取って、開隆堂を考えました。

【堤教育委員】

三省堂を1番に選びましたが、各出版社においては、デジタルコンテンツを活用しながら、独自の色合いが出ていて素晴らしいと思います。とても迷っていますが、啓林館の教科書も、発音練習がすごくシンプルな形で進めやすく、新しい時代の教科書であると感じました。また、開隆堂の教科書も、子どもたちが黙って英語の授業を進めるわけにはいきませんので、トライくんが登場するなどといった楽しく学べる工夫がされていると思いました。

【古川教育長】

今申し上げられた3社は、並列であるということによろしいですか。

【堤教育委員】

三省堂が1番で、残り2社は2番でお願いします。

【古川教育長】

承知いたしました。次に田中教育委員からお願いします。

【田中教育委員】

総合的には、三省堂と開隆堂の2社が素晴らしいと感じました。個人的には、光村図書出版の外国の子どもの英語を聞ける点がすごく面白いと思いました。教科書のデジタルコンテンツを聞いていても、完璧な英語を聞くイメージがあったので、子どもの声を聞ける教科書というアイデアは素敵だと感じました。総合的には、三省堂と開隆堂の2社かもしれませんが、私としては、光村図書出版を1番に推したいです。

【古川教育長】

残りの2社が、2番ということですね。

【田中教育委員】

はい。

【古川教育長】

承知いたしました。次に秦教育委員からお願いいたします。

【秦教育委員】

教育出版を1番に挙げます。理由は、英語という第2言語を習得するにあたり、まずは子どもに楽しく英語に興味を持ってもらうという点から、子どもが知っている日本のアニメが載っていることです。また答申でも述べられていますが、ページの構成がパターン化されており、学習内容が分かりやすい点も良いと思い、教育出版を1番に挙げています。

また次点では、三省堂と開隆堂を候補に挙げています。その理由については、先ほど皆さんが挙げられたような意見と同じ内容です。

【田中教育委員】

推薦する教科書を変えます。光村図書出版と啓林館を1番にします。

【古川教育長】

三省堂と開隆堂は2番のままでよろしいですか。

【田中教育委員】

はい。

【古川教育長】

承知いたしました。私は、三省堂が良いと思いました。「My Goal」という自分の目標を書くところがあり、目標を設定しながら取組むということは非常に大事だと思います。自分は何をしているのかということ全く分からず、いつものように教科書を開いて、黙って先生の話聞くということが、義務教育の反省点の1つとして挙げられると考えていますので、自分が何をやろうとしているのかが分かることは重要であると思います。またデジタルコンテンツも非常に良いと感じました。この中で1社に絞りますと、私は三省堂を選びます。

皆さんの意見をまとめますと、複数人が候補として選んでいるものは、三省堂または開隆堂という状況です。1番に選んだ人数としては、三省堂には2人、開隆堂には1人です。他にご意見いただけますか。

【山中教育長職務代理者】

三省堂も非常に良い教科書だと思います。対極的な話かもしれませんが、書き込みやすい教科書になっていますので、初めて学ぶにあたっては、様々なことを書きこめる点は良いと思います。

【秦教育委員】

先ほど教育出版を推した理由の中に、日本のアニメが載っている点を述べましたが、三省堂の教科書には、仕事やスポーツが紹介されており、できるだけ教科への興味をもってもらうために、英語という学習ではない観点に、まずは目を向けていただきたいという三省堂の取組は良いと思います。

【古川教育長】

田中委員は、三省堂と開隆堂を2番に推していますが、他に御意見などはございますか。

【田中教育委員】

個人的には、三省堂と開隆堂の2社が、英語の教材として楽しいものではないかと思っています。三省堂は、私が30年前にホップステップジャンプで学んだ時と一緒に、歴史のある学びやすい教科書であると思っています。開隆堂についても同じように学びやすい教科書であると思っています。ただ個人的には、光村図書出版と啓林館が良いと思います。

【古川教育長】

承知いたしました。それでは、今回の英語につきましては、三省堂に決定したいと思いますが御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

ご異議なしと認めます。それでは英語については三省堂に決定いたします。続きまして、家庭の教科書の採択に入ります。家庭の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

家庭については、学んだことを生活に活かしたり、深めたりするための工夫や、視覚支援などについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは山中教育長職務代理者からお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

どちらも非常に良いですが、どちらかを選ぶのであれば、東京書籍を推薦します。見開きのレイアウトがすっきりしているため、学習の見通しが立てやすく、分かりやすいです。また包丁の使い方が分かりやすく、個人的に気に入っており、東京書籍を推薦します。

【堤教育委員】

開隆堂を候補として挙げたいと思います。家庭科は、生活と密接に繋がっている中で、現在の生活と将来の生き方に関する知恵を身に付けていく必要があると思います。開隆堂には、子どもたちが、学校の先生方や家族といった身近な人々と対話する事例や、将来に向けてのキャリアインタビューなどがあり、総合的に注目すべき点が多かったと思います。

【田中委員】

私は、視覚的に見やすかった開隆堂を選びました。

【秦教育委員】

東京書籍を選んでいきます。個人的には、自分が口にするものがどういうものなのか、どういうふうになられているのかを知る点で、出汁の取り方や土鍋を使った米の炊き方の説明があり、現代において忘れられつつあるような基本が取り上げられているのは、食育が重要であると言われる中で非常に良いと思い、東京書籍を選びました。

【古川教育長】

開隆堂を選びました。動画が充実していることと、堤教育委員もおっしゃられたキャリアインタビューが良いと思いました。

皆さんの意見をお聞きしますと、3対2に分かれている状況で、もう少し御意見をいただきたいと思っておりますが、皆さんはどちらかと言えばという観点で、教科書を選んでいきますか。

【山中教育長職務代理者】

そうですね。どちらかと言えばですし、本当に甲乙つけがたいところです。開隆堂のキャリアインタビューについては、将来を考えることにつながっていく非常に良い工夫だと思います。

【古川教育長】

ありがとうございます。秦委員はいかがでしょうか。

【秦教育委員】

私も甲乙つけがたいところで東京書籍を選びました。開隆堂のキャリアインタビューも、非常に大事な取組だと思います。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは家庭につきまして、開隆堂に決定したいと思います。御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。それでは家庭については開隆堂に決定いたします。

続きまして、保健の教科書の採択に入ります。保健の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

保健については、思春期にあらわれる性の多様性についての表現や、保健を学ぶ意義についての工夫などについて議論が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは山中教育長職務代理者からお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

まず Gakken を候補として挙げました。保健においては、先ほど森田教育次長から説明がありましたように、気づきが大事だと思っており、Gakken には自分の意見を記入しやすい工夫がありました。書くことで様々な気づきを見つけられると思い、Gakken を選びました。また、実は東京書籍も良いと思っています。4つのステップで構成されており、学習の効果を高めやすい工夫があるとも述べられていますので、Gakken と東京書籍を候補として挙げます。

【古川教育長】

Gakken が1番で、東京書籍が2番という認識でよろしいですか。

【山中教育長職務代理者】

はい。

【古川教育長】

承知いたしました。次に堤教育委員からお願いいたします。

【堤教育委員】

Gakken を選びました。デジタルコンテンツで、学習内容が非常に分かりやすく説明されていますので、Gakken を選びました。

【田中教育委員】

大修館、文教社、光文書院の3社が印象に残りました。

【古川教育長】

3社の中で優劣はありますか。

【田中教育委員】

優劣をつけるとすると、文教社が1番で、それ以外は2番です。

大修館は、「ほけんくいずにトライ！」というデジタルコンテンツがあり、東大阪に住んでいますと、トライという言葉が印象的でした。文教社は、「もっと知っところ課」というデジタルコンテンツや、「もっと考えよう課」があって、発展的な内容に取組める点が印象に残っています。光文書院は、「どうしてほけん学ぶのかな」というコーナーで、一つの問いから保健の学びを始められるような工夫が印象に残っています。

【秦教育委員】

大修館を選びました。森田教育次長がおっしゃられた、どうして保健を学ぶのかという問いが最初に提示されている点と、社会問題になっているようなスマホ・ゲーム依存や、ここ数年我々が直面した問題である感染症の予防について、これらの事柄が取り上げられているため、大修館を選んでいきます。

【古川教育長】

東京書籍を選びました。LGBT に関する記載内容が、他社より一步進んでいると思えました。各社ともに大変優れた教科書であり、大日本図書にも同様の記載がありますが、総合的に東京書籍の方が良いと思えました。

ここまで皆さんの意見を聞いていますと、各々で推している教科書が分かれています。第1希望として推されているのは、Gakken が2人、大修館が1人、文教社が1人、東京書籍が1人という状況です。そのうち、第1希望などに関わらず、2人以上に推されている出版社は、東京書籍、大修館、Gakken である中、Gakken を推す声がやや強いように思われます。田中委員は、先ほど私が申し上げた3社の中では、大修館が最も良いですか。

【田中教育委員】

Gakken はバランスも良く総合的に質の高い教科書であるということは、私も同感です。東京書籍も、好きとなる対象を異性のみと固定的に捉えず、広く表現している点は、新しい時代に即した内容であると思えます。総合的には、Gakken の教科書が一番まとまっていると思えます。

【古川教育長】

ありがとうございます。秦委員はいかがですか。

【秦教育委員】

大修館が1番ではありますが、先ほど田中委員がおっしゃられたとおり、東京書籍やGakken の教科書において、性の対象を固定しない点は、これから本当に大事な議論になるかと思えます。一方で、Gakken の教科書が見やすいという評価についても、私も同様に感じています。

【古川教育長】

東京書籍か Gakken に絞られてきていますが、Gakken は山中教育長職務代理者らが選んでおり、先ほど秦委員などからも評価する御意見がありました。私も、Gakken には山中教授のことが記載されていて、バランスが良いと思います。

保健につきましては、Gakken に決定したいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

ご異議なしと認めます。それでは保健については Gakken に決定いたします。

続きまして、道徳の教科書の採択に入ります。道徳の教科書について、選定委員会での主な意見の概要を報告してください。

【森田教育次長】

道徳については、学習過程の工夫や自分の気持ちの変化を可視化するための工夫、多様な考えを出し合い、様々な考えを学ぶための工夫などについて論議が及びました。

【古川教育長】

ありがとうございます。それでは山中教育長職務代理者からお願いいたします。

【山中教育長職務代理者】

東京書籍を候補に挙げました。各社で非常に良い題材を扱っていますが、東京書籍は、まず目次の文面が、非常に見やすいです。また多種多様な教材が用意されており、現代の社会において、様々な変化が起こる中で、社会環境や学校生活の環境も変わりますので、先生がその状況に応じた教材を選べる点は、非常に良いと思いました。

【堤教育委員】

日本文教出版と Gakken を選びました。道徳の教科書の使い方という観点で考えた時に、別冊のノートがあるかという点も、学校で指導されている方にとっては様々な御意見があるかと思います。自分の考えや気持ちを表現することも、小学校から取組んでいく必要があるかと思います。Gakken は、決められた考え方ではなくて、共生社会を生きていくにあたって、どういう価値観を培っていくのかということに対しては、そういう素養や能力を身に付けるには良い教科書だと思います。

【古川教育長】

2社は同率で1番ですか。

【堤教育委員】

はい。

【古川教育長】

承知いたしました。次に田中教育委員お願いいたします。

【田中教育委員】

個人的に印象に残ったのは、光文書院の「へこんでも立ち直る」というコーナーです。諦めずに頑張るぞという点がすごく印象に残りました。他に、東京書籍と日本文教出版の「心のメーター」や「心情メーター」というものは、大人に関わらず小学生や中学生でも、心が病んでしまう方が非常に多くて、会社でもストレスチェック制度などが始まっていますし、心の状況を可視化することやメンタルコントロールは重要かと思います。他の出版社も同様の取組はされていますが、東京書籍と日本文教出版が特に目立ちました。個人的には光文書院が良いと思いました。

【古川教育長】

3社の中で、順位を付けるとするならばいかがですか。

【田中教育委員】

1番は東京書籍と日本文教出版の同率で、2番目が光文書院です。

【古川教育長】

承知いたしました。次に秦教育委員からお願いいたします。

【秦教育委員】

光村図書出版を選びます。「考えよう・話し合おう」というコーナーで、自分で学びを深めることができ、非常に重要なことだと考えます。また、これは理由として適切かどうか分かりませんが、東大阪市が取り上げられている点にも注目しました。

【古川教育長】

日本文教出版を推します。先ほどお話があった道徳ノートが、非常に良いと思いました。読むだけでなく、表現することはとても大切だと思います。また、心情メーターといった目に見えないことを数値化する試みは、非常に社会的な意味があると思います。

実は、光村図書出版にも注目していて、東大阪の会社を取り上げられている点は、社会科とは違った意味で、大きな意味があると思います。また東大阪の会社を通じて、身近に働いている人について考えることは、機会として非常に良いと思い、日本文教出版と光村図書出版を同率で1番に推します。

皆さんの意見は、東京書籍を1番に推す人は2人、光村図書出版を推す人が2人、日本文教出版を推す人が3人、Gakkenを推す人が1人、光文書院を2番に推す人が1人です。6社の中では、東京書籍、光村図書出版、日本文教出版かと思います。いかがでしょうか。

【山中教育長職務代理者】

日本文教出版の教科書には、別冊があります。この点については、皆さんの意見が分かるところであるかもしれませんが、やはり書くことは、教育効果を大きく上げるものであるという中で、この別冊はボリュームがあるため、子どもたちが学んだことをたくさん書きこむことができると思います。もちろん書くことが苦手である子どもたちもいますので、ネガティブな面としてはその点になってしまいますが、先生方の工夫によって、書くことを上手く定着させることができれば、非常に教育効果を高められるものではないかと思っています。

【堤教育委員】

道徳という教科の歴史が浅いことから、様々な意見があるかと思っています。道徳の先生や研究者の方々が日々研究されている中、子どもや先生の中に、様々な知見や学びのプロセスというものを蓄積していきながら、東大阪市の道徳教育を構築していただければと思っています。ノートを使うという観点については、先生にとって負担に感じる面もあるかもしれませんが、書くことは全ての基本でもある中で、道徳においては表現が非常に難しいことから、その表現にチャレンジしていくことで能力を養いつつ、道徳教育の研究を進めていただけたらと思います。

【秦教育委員】

先ほど田中委員がおっしゃられましたが、自分の心は、自分自身では分かっているようで、実は分かっているものではないものであるという中で、自分自身がこういう面であまり調子が良くないと把握することによって、例えば、徐々に学校に行きたくないという心情が出てきた時に、自分の中でその心情に気づくことができれば、誰かに相談するなどといった早期の予防策を講じることができます。したがって、心のメーターや心情メーターを通して、自分の心を理解しようとすることは、非常に高い効果があると思います。

【田中教育委員】

私の感覚にはなりますが、道徳の授業では、相手の気持ちを理解することなどを、昔は教えられていたイメージがあります。現代の子どもたちは、様々な情報やデータを入手することができる中で、日本文教出版のシンキングツールや心情メーターといわれるものは、心理学や統計学の要素も加わりながら学ぶというところで、私としては、どこか相反するような感じもしなくはないなと思うところですが、自分を見つめ直すツールとしてはすごく良いものであると思いました。この3社であれば、日本文教出版が1番良いと思いました。

【古川教育長】

道徳ノートにおいては、活用に関する様々な意見があるかと思いますが、心情メーターについては評価する声が非常に大きいと思います。山中教育長職務代理者においては、日本文教出版はいかがでしょうか。

【山中教育長職務代理者】

良いと思います。堤教育委員がおっしゃられたように、書くことに関する工夫を積み上げていくことが、本市の教育にとって非常に良い効果をもたらすと思いますので、異論はございません。

【古川教育長】

複数の意見から日本文教出版を推す声が多いようですが、道徳の教科書につきましては、日本文教出版に決定したいと思いますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なし)

【古川教育長】

ご異議なしと認めます。それでは道徳については日本文教出版に決定いたしました。

それでは、国語から道徳まで全 13 種目を決定いたしました。ここで改めて決定いたしました全 13 種目の発行者名をまとめて申し上げます。

国語から順に申し上げます。

国語につきましては、東京書籍。

書写につきましては、光村図書出版

社会につきましては、日本文教出版

地図につきましては、帝国書院

算数につきましては、啓林館

理科につきましては、啓林館

生活につきましては、啓林館

音楽につきましては、教育芸術社

図画工作につきましては、開隆堂

英語につきましては、三省堂

家庭につきましては、開隆堂

保健につきましては、Gakken

道徳につきましては、日本文教出版

以上でございます。

本日予定しておりました議案審議は以上でございます。

次に、報告をお願いいたします。「令和 5 年度全国学力・学習状況調査の結果について」の報告をお願いします。

【吉本学校教育推進室次長】

令和 5 年 4 月 18 日に、小学校 6 年生・義務教育学校 6 年生、中学校 3 年生・義務教育学校 9 年生を対象に実施された令和 5 年度全国学力学習状況調査の結果について報告しま

す。資料 1 ページをご覧ください。今年度の調査内容は、小学校 6 年生と義務教育学校 6 年生は国語・算数、中学校 3 年生と義務教育学校 9 年生は国語・数学・英語で、他に小中学校、義務教育学校共通で、学習意欲や学習方法等に関する質問紙調査が行われました。今年度の結果概要についても、同頁にまとめています。

まず教科について、市全体の結果における平均正答率は、どの教科も全国平均には届きませんでした。国語については、小中学校、義務教育学校ともに、わずかに改善が見られました。各教科に共通する課題は、図や表などの様々な情報から必要な情報を読み取る力、得た情報を多面的・多角的に考察する力、考えをまとめて表現する力が挙げられます。

次に、児童生徒質問紙調査について、小中学校、義務教育学校ともに、「自分にはよいところがある」と肯定的に回答する割合が、昨年度よりも増加しています。また、授業でのパソコンやタブレットなどの活用頻度は、全国に比べて高く活用が進んでいます。一方、家庭学習の時間が比較的少ない傾向があり、家庭での時間の使い方に課題が見られます。

教科及び児童生徒質問紙調査の結果から、今後の取組として、知的好奇心やワクワク感などの探究心を持ち続けるための主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、1 人 1 台端末や AI ドリルなどを効果的に活用し、教員主導の授業から子ども主体の授業への転換を引き続き推進していきたいと考えます。またすべての子どもたちが、誰 1 人取り残されない「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に活かす「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、学びの基盤となる言語能力や情報活用能力などの向上を目指します。

各学年教科における本市と全国の平均得点については、資料のとおりでございます。資料 2 ページをご覧ください。本頁から 6 ページまでは、各学年・各教科の結果をまとめています。現在ご覧いただいている資料 2 ページは、小学校の国語の結果についてです。問題数 14 に対し、平均正答数は、本市 8.9 問で全国 9.4 問でした。正答数分布については、10 問をピークとする右寄りの山型で、11 問以上の割合が全国に比べると低い結果でした。

続いて、資料 3 ページをご覧ください。小学校の算数について、問題数 16 に対し、平均正答数は、本市 9.3 問で全国 10.0 問でした。正答数分布については、11 問をピークと

する山型で、12問以上の割合が全国に比べると低い結果でした。

続いて、資料4ページをご覧ください。中学3年生の国語について、問題数15に対し、平均正答数は、本市9.6問で全国10.5問でした。正答数分布については、12問をピークとする右寄りの山型で、11問以上の割合が全国に比べると低い結果でした。

続いて、資料5ページをご覧ください。中学校3年生の数学について、問題数15に対し、平均正答数は、本市6.6問で全国7.6問でした。正答数分布については、台形に近く、8問以上の割合が全国に比べると低い結果でした。

続いて、資料6ページをご覧ください。中学校3年生の英語について、問題数17に対し、平均正答数は本市6.6問で全国7.7問でした。正答数分布については、全国と同じく、4問をピークとする左寄り山型で、9問以上の割合が全国に比べて少ない結果でした。

続いて、資料7ページをご覧ください。7ページと8ページは、児童生徒質問紙の結果の抜粋を掲載しております。先ほど、「自分にはよいところがある」と肯定的に回答している割合が、昨年度よりも増加しているとお伝えしましたが、7ページは、それに関わるアンケート結果を掲載しています。また8ページには、家庭学習の長さについても先ほどお伝えしましたが、それを裏付けるアンケート結果を掲載しています。報告は以上でございます。

【古川教育長】

ただいまの報告について、御質問、御意見等はございますか。

【各委員】

(特になし)

【古川教育長】

それでは、次に、感謝状の贈呈について報告をお願いします。

【教育政策室より概要を一括報告】

・感謝状

高等学校課 1 件

施設整備室 5 件

【古川教育長】

御質問、御意見などはございますか。

【各委員】

(特になし)

【古川教育長】

その他、教育委員の皆さまから御意見などはございますか。本日は、市民の方が多数来られています。本市の教育に関して、これまでの取組も含めて、課題などを挙げていただければと存じます。

【田中教育委員】

東大阪市の教育は、例えば電子図書館の書籍数が全国 1 位で、他市に先んじて AI ドリルや Qubena などを導入するなど、デジタルコンテンツについては全国より早めに取り組んでいる状況で、まだ結果が出ていない点もありますが、子どもたちの学校に行きたいという意欲は、全国的にも平均以上の状況です。ただし、教育委員会として、広報により力を入れる必要があり、東大阪市の方でも本市の取組を知らない方も多いため、数々の取組をもっと知ってもらう活動に取り組んでいくべきであると思います。私も教育委員会に携わる前までは、もっとこんなことに取り組めばいいのというイメージがありましたが、実際は様々な取組をされているので、もっと本市の取組を知ってもらい、そして理解を仰いでいくような活動を、より重点的に取り組んでいただけたらと思います。

【秦教育委員】

東大阪市の電子図書館の蔵書数が非常に多い一方で、個人的には、紙の本も大事であると思っており、子どもが紙の本に触れるという機会が、今後 ICT 機器の導入によって減っていくと思っております。そういう点も踏まえて、子どもの居場所が必要であると叫ばれている中で、図書館や図書室などが開けられていることで、子どもたちが、なんとなくその場所で安心して休憩できるような、そういう場所がいつでも開いているという状況ができればと個人的には思っています。一方で、学校の先生方にとっては、なかなかそこまで手が回らないという現状もたくさんあるかと思っておりますので、その点のバランスや兼ね合いを考えながら、先生方の御負担がないような状態で、できる限り子どもの居場所づくりとして、図書館や図書室が開いているという状況があれば良いかと個人的には思っております。

【山中教育長職務代理者】

昨今、日本全国で不登校の問題が挙げられています。今、私は「問題」とお話ししましたが、やはり問題という捉え方ではなくて、現在不登校が増えている状況ではありますが、一人ひとりに寄り添ったそれぞれのメニューを作って、教育も然りですが、支援していくことが大事であると思っております。昨年、私は東大阪市内で企業を営んでいるのですが、教育委員事務局の方々のサポートのもと、不登校の状態から学校に行く一歩手前の方々が、私の会社に来ていただきました。教育委員会事務局の方々が、熱心に、そして温かく、子どもたちを支えておられる姿を見て、私だけでなく社員も、子どもたちと支援いただいている職員の方々からエネルギーをいただきました。何が言いたいかといいますと、その「問題」という捉え方だけではなくて、世の中の状況から考えても、今後不登校のような子どもたちは増えていくと思います。これに対して、お金、労力、時間など色々かかると思いますが、一人ひとりに寄り添った形の支援を、今後も取組んでいただけたらと思います。

【堤教育委員】

私からは、学力向上について申し上げます。先ほどは、ご報告ありがとうございました。データも見せていただいた中で、子どもたちを前向きに育てていただいていると思います。学力向上は、教育の中では永遠のテーマで、そして重要な問題です。全体的な市の状況などは分かりましたが、学校・学年によって様々な違いがあると思いますので、引き続き細かな分析を通して、それを活かす形で、学力がうまく向上している例なども聞かせていただいて、今後も研究を進めていただきたいと思います。また先生が、子どもの探求的な学びを築いている中で、いわゆる研修のような先生の探求的な活動に対しても、東大阪市として、研修費用や時間の創出などを、既に取り組んでおられる大阪府の研修はもちろんのことですが、市外や府外についても積極的に研修に参加できるような体制を構築していただく必要があると思います。

もう1点ですが、日新高校が創立100周年を迎え、先日式典が行われました。大阪府にて高校の無償化が進む中、さらに厳しい競争が予想されます。次の新たな100年を創る改革を推進していく体制を、学校や教育委員会事務局でも進めていただいていると思いますが、日新高校は普通科・英語科・商業科がある中、より各々の特色を出して、子どもたちの学びの豊かさを追求する必要があります。例えば、留学や外国人の指導者などといった様々な指導体制を充実させるなど、教育委員会と事務局、そして教職員の皆様と一緒に方向性を明確に決めて、具体的なプロジェクトを立ち上げながら進めていきたいと思っています。

【秦教育委員】

先ほどの図書の話について、追加で意見を申し上げます。どうしても子どもと学校・先生だけのやりとりをイメージしますが、本来は地域や保護者なども含めて、様々なことにアンテナを立てて進めていくのが良いと思います。市職員の方や学校の先生が、様々なことに取組まれている中で、今後は保護者や地域の方々も含めることで、そういうものが1つの形になって、より良いものになると思います。そういう点で、広報などを通して、取組を波及させることができれば、今の取組をより良い形で継続できると思います。

【堤教育委員】

現在、子どもたちが少し学校に行きづらくなっている中で、学校に行ってみようという気持ちになった時に、教室に入ることのハードルが高いことから、図書室が開放されていて、子どもたちが自由に、そして居心地が良いような形で学校に行けるような工夫をしていただいていると思います。また、メンタルに関する相談や教育相談などについては、既に教育センターが取組まれていて、専門家の方に相談できるような体制を確保していただいています。子どもたちが教室に入れなくても、図書室や保健室といった場所に行くことができるような工夫や人員配置とございますか、そういう点を考えていただければと思っています。その点に関して進捗などについてお聞きしてもよろしいですか。

【中渚学校教育推進室長】

学校内の相談支援については、例えば、スクールカウンセラーが中学校区に配置されておりますので、そのスクールカウンセラーや、先ほど堤委員がおっしゃられた教育センターからも小学校へ派遣相談を行っていますので、子どもや保護者が、事前の調整が必要にはなりますが、相談を受けるような体制を作っているところでございます。

【堤教育委員】

教職員の方々をはじめ、事務局の方々も様々な工夫や取組をしていただいて、先ほど中渚学校教育推進室長からのお話にもありましたように、改善に向かっていただいていると思います。しかし、子どもの数も、大阪府内3番目の市町村ですので、その相談を受けていただく職員の体制をより充実させていく必要があります。実際に教育相談を受けられた方がすごく喜んでおられていることは存じ上げておりますが、例えば、私の子どもが困っていて、私が何らかの形で相談をさせてもらう時に、保護者としては今日にでも相談したいという気持ちになることが多くて、それが何ヶ月後先になっていることがあれば、その人員確保という点でも、1つの部署だけで解決できることではありませんが、その点においてはいかがですか。

【中渕学校教育推進室長】

先ほどお話ししましたスクールカウンセラーや相談員は、常駐しているわけではありませので、すぐに相談したい時に対応できないことがございます。その点については課題と考えていますので、どういった体制が作れるかという点については、引き続き検討していく必要があると思います。

【堤教育委員】

よろしくお願いたします。

【古川教育長】

それでは、本日の会議はこの程度でとどめたいと存じますが、御異議ございませんか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。

それでは次回の教育委員会議の日程を事務局よりお願いします。

【事務局より】

次回の教育委員会議については、令和5年9月25日(月)午後2時より開会する予定にしております。

【古川教育長】

それでは、これもちまして、東大阪市教育委員会令和5年8月定例会を閉会いたします。委員の皆様方、また、御出席の皆様、大変御苦勞様でした。

会議録署名委員

東大阪市教育委員会教育長	古川 聖登
東大阪市教育委員会教育委員	田中 宏一